



東武伊勢崎線の鷺宮(わしのみや)駅の近くに関東で最古といわれる鷺宮(わしのみや)神社がある。住所は埼玉県久喜市鷺宮(わしみや)で駅名とは違っている。いっぽう、JR宇都宮線の東鷺宮(ひがしわしのみや)駅も昔の呼び名に従っている。

卍 関東最古の大社

わしのみや 鷺宮神社は、関東最古の大社とされ、歴史書「吾妻鏡」にも記述がある。神社で奉演する伝統芸能「わしのみや 鷺宮さいばらかぐら 催馬楽神楽」は国の重要無形民俗文化財に指定されている。祭神は、あめのほひのみこと 天穗日命、たけひなりのみこと 武夷鳥命、おおなむちのみこと 大己貴命。

かみよ 神代の昔に、あめのほひのみや 天穗日宮とその御子 たけひなりのみや 武夷鳥宮とが、こうざき 神崎神社（大己貴命）を建てて奉祀したのに始まり、次に あめのほひのみや 天穗日宮の御霊徳を崇め、別宮を建てて奉祀した。この別宮が現在の本殿である。
けいこう 景行天皇の御世には、やまとたけるのみこと 日本武尊が わしのみや 鷺宮神社の神威を崇め尊み、社殿の造営をし、併せて相殿に たけひなりのみや 武夷鳥宮を奉祀した。

中世以降には、関東の総社また関東鎮護の神として、武将の尊崇が厚く、歴史上有名な武将だけでも藤原秀郷・源義家・源頼朝・源義経・北条時頼・北条貞時・新田義貞・小山義政・足利

氏歴代・古河公方・関東管領上杉氏歴代・徳川家康等があげられ、武運長久等を祈る幣帛^{へいはく}※の奉納や神領の寄進、社殿の造営等がなされた。なかでも江戸時代には、四百石の神領を与えられ、代々の将軍の名で朱印状が残されている。明治天皇が行幸され、昭和天皇の御世にも、幣帛^{へいはく}を賜った。

※ 幣帛^{へいはく}：神道の祭祀において神に奉獻するものの総称。みてぐら、幣物とも言う。^{へいもつ}



鷺宮神社社務所
(昭和七年頃)

再建された大鳥居・「らき☆すた」の聖地

現在の大鳥居は、令和3年(2021)12月に再建されたばかりである。鉄製で高さ8m、柱の間6m、屋根に当たる笠木部は幅11m、重さ10トにも及び、従来よりひと回り大きくなった。以前の大鳥居は木製で、明治に建てられ修復を重ねてきたが、平成30年(2018)8月、老朽化で突然倒壊してしまった。鷺宮神社は、人気アニメ『らき☆すた』の舞台になり、全国のファンから「聖地」として親しまれてもいる。『らき☆すた』のオープニング映像に登場して以来、多くのアニメファンが訪れる場所となっている。アニメで描かれたのは、鷺宮神社の鳥居と、田楽や関西風おでんを出す古民家の大西茶屋田々^{わしのみや}。正月には40万を超える初詣客が訪れる。^{おどり} ^{でんでん}



ソメイヨシノ と ウコンザクラ

わしのみや

鷺宮神社の桜はソメイヨシノが中心、本数はさほど多くないが、3月下旬にはほぼ満開になった。



1151. そめいよしの

Prunus yedoensis Matsum.

〔ばら科〕

庭園土手等に栽植される落葉高木で高さ7m内外。樹皮は灰色、枝は四方にひろがり、若枝は有毛または無毛。葉は有柄で互生、広い倒卵形、先端は急に尖り、長さ8cm内外、ふちには鋭い重きよ歯があり、両面には葉柄とともにうすく細毛がある。成長するにつれて光沢を増す。4月初め、新葉より先に散形状に密集した淡紅白色の数個の花を開き、全枝が花でうずまり美しい。花柄は長く細毛がある。がくは短い筒形で下部がふくれ細毛があり、5がく片は水平に開出する。花弁は5、楕円形、凹頭。雄しべは多数。花柱には微毛がある。核果は球形、径7~8mm、紫黒色に熟し、多汁である。〔日本名〕染井吉野。はじめ東京の染井の植木屋から世にひろがったためである。元来植木屋では本種を吉野と呼んで桜の名所、吉野山の桜になぞらえていたが、単に吉野といったのでは、吉野の山桜と混同するので、明治5年(1872)にはじめて染井吉野の名がつけられた。本種は明治維新直前頃にはじめて東京に出現したもので、江戸の桜ではないであろうから、これに *yedoensis* の種名をつけたのは適切ではない。朝鮮の済州島に本種が自生することがわかっているが、一般に栽植されているものは、系統を異にしているであろう。ウバヒガンとオオシマザクラの雑種であろうというのが一番可能性がある。

(牧野新日本植物図鑑より)



牧野富太郎によれば、そめいよしのは図鑑にも書かれているように、江戸の桜ではないので、江戸 *yedoensis* の名を冠するのはよろしくないそうである。いずれにせよ、歴史的には新しい品種である。

山手線駒込駅のすぐそばにある染井霊園が発祥の地といわれている。筆者などは、旧称の染井墓地のほがが馴染みやすい。

桜の語源は、日本神話に登場する木花咲耶姫このはなさくやひめの「さくや」に由来しているとの説がある。また、「咲く」という言葉を複数にして「さくら」となったという説もある。

わしのみや
鷺宮神社では、ソメイヨシノに交じって一本だけ咲かない桜がひっそりと立っていた。ウコンザクラである。4月中旬から5月上旬に遅れて開花する品種で、花の直径は3~4cmほど、10~20枚の黄色・黄緑・緑色の花弁が重なり合う八重咲きとなる。オオシマザクラを基に生まれた日本原産の栽培品種で、名前はショウガ科のウコンの根を染料に用いた鬱うこん金色に由来する。緑色のクロロフィルが少ないため黄緑(淡黄色)に見えるといわれている。ウコンザクラは、黄色い花を咲かせる唯一の桜であり、清酒「黄桜」はこの花にちなんでいるとのこと。

わしのみや
鷺宮神社のウコンザクラは、3月末ではまだ、固い蕾のまま色づいてもいなかった。鷺宮神社のウコンザクラが咲く4月中旬にあらためて、咲き具合を見届けようと思う。



㊦ 牧野新日本植物図鑑にウコンザクラはない！

意外なのは、牧野新日本植物図鑑に、ウコンザクラが収録されていないことだった。桜としては、うばひがん（えどひがん、あずまひがん）、しだれざくら（いとざくら）、ひがんざくら（こひがんざくら）、じゅうがつざくら（しきざくら）、そめいよしの、やまざくら、けやまざくら、おおしまざくら、うすがさねおおしま、さとざくら、みやまざくら、など23種が記載されている。

日本には現在、600種類以上の桜があるといわれているが、分類のし方によっても異なるようで、正確な数はわからないようだ。古くから園芸品種の育成が盛んに行われてきた結果でもあるし、自然交配で100種以上生まれているといわれる。ものの本によれば、11種の基本野生種である、ヤマザクラ（山桜）、オオヤマザクラ（大山桜）、カスミザクラ（霞桜）、オオシマザクラ（大島桜）、エドヒガン（江戸彼岸）、チョウジザクラ（丁字桜）、マメザクラ（豆桜）、タカネザクラ（高嶺桜）、ミヤマザクラ（深山桜）、クマノザクラ（熊野桜）、カンヒザクラ（寒緋桜）から様々な品種が生まれているという。

【関連情報】 [❖「花見」久賀伸之（平成14年\(2002\)3月）](#)

Back[虫めがねTopへ](#)Home[Home Pageへ](#)